



三条北ロータリークラブ週報

行動に信念を—信念は行動に—

BELIEVE IN WHAT YOU DO —
DO WHAT YOU BELIEVE IN —
国際ロータリー会長 ロバート R. バース 第2560地区ガバナー 細瀬久雄

例会日
1993. 10 . 26
累計 No 339
当年 No 16

会長／羽賀 一 夫

幹事／長谷川博一

SAA／早川 龍 雄

例会日／火曜日 PM12:30～1:30

例会場／三条ロイヤルホテル ☎34-8111

事務局／三条市西四日町3-15-34
ヒューマン・ハーバー内 ☎35-7160
FAX ☎33-8972

行 事： 社会奉仕委員会 卓話「いま、学校に求められているもの」
三条市学校長会会長・三条市立第三中学校校長 土佐 弘様

出 席： 本日の出席 55名中40名

先週の出席率 55名中53名 96.36%（前年同期73.21%）

先週のメークアップ： 10月15日 能代RCへ 柄沢憲司さん

20日 三条RCへ 中条耕二さん 外山晴一さん

21日 加茂RCへ 高橋彰雄さん

25日 三条南RCへ 中条耕二さん 石川勝行さん

ビジター： 三条RCより 岩井数央さん 藤田紘一さん 長谷川有美さん 林 光輝さん

ゲ ス ト： 三条市学校長会会長・三条市立第三中学校校長 土佐 弘様

幹事報告： 長谷川（博）幹事

◇ 会員退会のお知らせです。笹原勝治さんは10月12日をもって北クラブを退会されました。

◇ 第2560地区地区大会参加礼状を頂戴いたしました。

◇ ロータリー財団よりP・H・Fのメダルが山口龍二さんにとどいております。山口さんご出席の時に伝達を行います。

委員会報告：

社会奉仕委員会 山上委員長

社会奉仕委員会から発表いたします。先程、会長からお話がありましたが、地区大会に私も行ってきました。会長ほど余裕がなかったので、女性会員の話にはどうも縁がないように思われて、若い会員に任せる気持ちで話を聞いていましたが、社会奉仕のことにつきましてはきちんと聞いてまいりました。その中で、プロバスクラブというクラブを活用したらどうかという提言もありまして、これは会社や自分の企業やそういうところで働いて高齢になりリタイアをされた方、人生経験も社会的にも仕事の面でも大変経験豊富である。こういう方を活用しない方法はないということ

ります。同じ盆栽を作られ、同じこまを作られたのでは校長は経営はできません。変化があるからこそ、校長の経営手腕が発揮できるのでありまして、将棋と同じです。歩がいて、飛車がいて、角がいて、金がいてこそ将棋ができる。経営ができるのです。ですから学校の中に変わった職員がいてこそ校長として経営ができるのですから、あまり初任者研修を一年目から強力にやられてできなかった先生を作っていただくというのは、ある意味では反対という気持ちもあるわけです。そういう点で盆栽人間になるなということです。

仁丹人間というのは、仁丹は丸くてキラキラ光っていてきれいですが、一粒では役に立たないという人間です。どんなに立派な一人、一人であっても一粒では役に立たない人間になるなと言っています。

いくつか省略しますが、日本古来の原点に戻れということで、これは三人の名前を思い出せということです。『空海、良寛、一休』です。空海は、空のように広い心を持って、海のように深い心を持ってということ、良寛は、当然教師でありますから、良識と寛容が大事だということ、一休というのは、常に25時間やっていれば体がこわれるから、たまには休みをとって一休みしようということです。空海、良寛、一休、の名前を忘れるなということを言っています。

冒頭で申し上げたように、開かれた学校で子供に感動を与えたい、いい意味でも悪い意味でも感動を与えたい、思い出を与えたいというのが私の気持ちです。

四つのテスト

— 言行はこれに照らしてから —

- | | |
|------------|------------------|
| I 真実かどうか | III 好意と友情を深めるか |
| II みんなに公平か | IV みんなのためになるかどうか |

11月2日例会： 会員卓話 新会員平山 誠さん

11月9日例会： 市内三クラブ合同例会 V I P

で、そういう方々を積極的にいろんな所に参加していただき、お招きをして経験などを教えていただき、お聞かせいただいて、自分達の進む方向を再認識をするということで、大変勉強になるということです。これは人間尊重ということで、以前、高齢者への心づかいということでしたが今は子供から大人まで、全社会的な全生涯教育的な見地からやらなければならないというお話でしたのでそれについても申し上げます。

それから身近なことです、この24日の朝、皆さんが今年の春植えていただいた『花一杯運動』がありますが、その中でデコニアの花を市民の皆さんにサービスをして、きれいに咲いた花をお持ち帰りいただくことで、このクラブにも参加依頼がありましたので、北クラブを代表させていただきますまして私と長谷川幹事さんの二人で出まして、朝7時30分からデゴニアの花を包みまして、午前8時から市民の皆さんに配布させていただいたということで、地域とのつながりの中での社会奉仕であるということで報告をさせていただきます。

プログラム委員会 吉川委員長

プログラム変更のご案内

今週の例会ですが、ロータリー財団の平松さんの担当でしたが、急きょ変更になりました。12月28日という日どりです。11月2日の例会は新入会員の平山さんに卓話をお願いしてあります。

ニコニコボックス：

10月19日

馬場直次郎君 地区大会に初めて出席しました。幹事さんご苦労様でした。いろいろ勉強になることが出来ました。夜の前橋地区大会これも又楽しく勉強させてもらいました。

本間建雄美君 親睦委員の皆様、婦人同伴の夜例会一人で参加させて戴きます、妻の分も楽しんでまいります。

梨木建夫君 第四銀行のコンペで今日優勝いたしました。一枚入ってます、よろしく

堀川正幸君 楽しい夜に感謝、

石川友意君 BOXに!!

10月26日

羽賀一夫君 土佐校長先生お忙しい中おいでいただきまして有難う御座居ました。

梨本清一君 土佐校長先生の卓話に心より御礼を。

齋藤正君 土佐先生卓話有難うございます。心から感謝します。

山本賢君 土佐先生をお迎えして。

山上茂夫君 24日の三条市体育協会70周年記念で水協会会長として永年の功労に対し感謝状を戴きました。

馬場直次郎君 ♪雪は降る、10月の23日なのにチェーンはない～、命からがらようやく帰ってきた～♪（雪が降るのメロディーでお願いします）先週の土、日上州万座温泉標高

一つは、我々は実践家であるということです。教育実践です。評論家ではありません。世の中幸いに評論家は一杯いる。学校などあるとワイワイと地域の方から、議員の方から何だかんだと評論をしてくれる。これは大変ありがたいのですが、我々はあくまでも評論をしてはダメだと、実践家であるということを忘れてはならないということです。後になって、くどいたり、言い訳をしたりするのは、実践家としての自分を惨めにするだけです。色々評論をしてもらう時は、それを受けながらモクモクと子供を相手に25時間やる。そういう気持ちが大事だと思う。従って周りは気にするな、失敗を恐れるな、物事において後悔をしてはいけない。やったことには自信を持て、涙は俺がふくと最後は言っている訳です。

二つ目は、人生は出会い、因縁であることを忘れないようにしようということです。特に子供にとっては選べないものが三人います。これはお父さん、お母さん、学級の担任です。これは絶対に選べません。担任をかえてくれという親がいますが、これは絶対にかえる訳にはいきません。神様が与えてくれた因縁です。お父さん、お母さんをかえてくれといっても絶対無理な話です。子供はこんな土佐みたいな学級担任に当たらなければよかったと思う子も、当然40人の子供ですからおります。それと同時にこんな家に生まれてこなければよかったな、こんなお父さんの下に生まれてこなければよかったなという子供も、いないわけではありません。従って義務教育の子供にとっては、両親と学級担任というのは、神様が与えてくれた因縁でありますので、そういう出会いを大事にしなければならないわけです。因縁を大事にしながら自分の一生を送る、人生を送ることが大事なのだから、お互いに出会いを大事にしようということです。

三つ目は、仕事に迷ったらやめてくれ、人の関わりで迷ったらやめればいい。よく校長どうしたらいいか、会長、社長どうしたらいいかといえます。私は社長にもよく言っていますが、仕事で迷ったらやめさせる。人の付き合いで迷ったらやれ、仕事で迷った時には、必ず自信のある仕事はできません。結局、前と同じにするか、辛くて大変だったという思いしかないわけです。やっても喜びは生じませんので、どうしようかと迷った時には前と同じようにやっておけ、前と同じようにやっておけば間違いない、下らず平行線をいくわけですからと言います。人の付き合いで迷ったらやれ。今日は家庭訪問をしたらいいか、もう10時を過ぎているがやっておけば間違いない。夜中の1時だろうが、2時だろうが大事な子供です、そういう時におしかけてきて失礼だという親は絶対いないはず。今日は一杯、飲み会があるがどうしようかなと思った時は行っておけばいい、今日は葬式があるけれども迷った時は行っておけばまず間違いないのです。そういう点で仕事に迷ったらやめ、人の関わりで迷ったらやれということです。

四つ目は、『盆栽人間』『仁丹人間』になるなということです。

盆栽人間というのは、見てくれはいいがちこまっている人間です。形だけが作られている。とかく今、教育界は初任者研究といって、一年目から60何日くらいでしょうか引っ張られて盆栽作りをさせられる。せっかく若木が伸びようとしているところを枝を切られるのでは、私は困るのであ